

# 未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

## 第1学年国語科学習指導案

単元名

ぽかぽか♡ゆうびん

—せんせいにありがとうの気持ちがつたわる手がみをかこう—

日時：令和4年2月17日(金)5校時

本時1

児童：文京区立千駄木小学校 第1学年3組30名

担任：文京区立千駄木小学校 清水 薫

授業者：北区立豊川小学校 橋浦 龍彦

本時2

児童：文京区立千駄木小学校 第1学年3組30名

担任：文京区立千駄木小学校 沼 明咲実

授業者：足立区立千寿常東小学校 臂 美沙都

### 1 単元の目標

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能(2)ア〕
- 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等B(1)ア〕
- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等B(1)ウ〕
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

### 2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	①「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ②「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ	①粘り強く、学習課題に沿って自分の思いや考えが明確になるように、簡単な構成を考えて書くことを通し、手紙の良さに気付いている。

### 3 単元構想

(1) 児童について (児童観)

「ともだちのこと しらせよう」では、伝えたい情報を集め、その中から一番伝えたいことを選んで書いた。詳しく書くために、更にメモをしたり、必要な情報を選んで書いたりすることができた。「わたしもやってみよう。」など、自らの気持ちを書く姿が見られた。

「しらせたいな みせたいな」では、秋の落ち葉など、生活科の学習での気づきを書いた。夏の頃と比べて、葉の色や大きさはどうかなど、具体的な視点をもって観察し、気付いたことを書き表すことができた。しかし、順序立てて書くのではなく、思い付いたことを次々に記述しており、構成の検討への意識は十分でない。内容のまとまりごとに一字下げて書くなど、書き方のきまりについても定着を図っている段階である。

## (2) 学習材について（学習材観）

本単元では、光村図書「てがみでしらせよう」の学習材に続いて、手紙の書き方を学ぶ。手紙をもらったときの嬉しさを想起させ、自分の思いを手紙に書くことで相手に伝えることができるという達成感も味わせたい。また、このことを通して、簡単な手紙の形式や内容を理解させ、相手意識や目的意識を明確にして書く経験をさせる。さらに、情報通信技術が発達した時代を生きる児童にとって、手紙文の指導は、相手や目的によって多様な通信手段があることを理解させ、今後、それらに応じた書き方を習得させていくきっかけとなると考える。

## (3) 単元について（単元観）

本単元では、「手紙を書いてみたいな。」「どうやって書いたらいいのかな。」という思いと、「返事が来るといいな。」「どんなお返事が書いてあるかな。」という手紙をもらったときの嬉しさをもとに単元を構成する。まず、0次での手紙を書いた経験を伝え合ったり、手紙を題材にした絵本の読み聞かせを楽しんだりする。また、「てがみでしらせよう」での学習を振り返り、手紙を書くことに興味をもつようにする。次に、「お世話になった先生に手紙を書く」という相手意識を明確にもち、先生と過ごした楽しかった出来事や嬉しかった出来事を想起させ、書くことを見付けていく。その際、文例を提示することで、どのような内容を、どのような順序で書けば、自分の思いが明確になるのか、児童自身に実感させ、単元全体の見通しをもって学習を進めていく。

# 4 研究主題に迫るために

## (1) 学びの質の向上を図る単元の工夫

### ①児童の実態に応じた学びの必然性がある課題

1年生の段階では、手紙を書く経験の浅い児童が多い。また、本単元では、児童がお世話になった先生に手紙を書くという、明確な目的意識と相手意識をもつことができ、「書くこと」の言語活動の入門として、適した課題だと考えられる。さらに、情報通信技術が発達した時代における手紙文の指導は、手紙の書き方を身に付けることを通して、今後、手紙やメールの機能、さらには相手や目的によって多様な形態があることを理解させるきっかけとなることが期待される。

### ②豊かな語彙の拡充につながる指導

手紙文には形式がある。始めには、「○○先生、いつも□□してくれてありがとう。」という挨拶文、中には、楽しかったこと、嬉しかったこと等の経験とその時の気持ち、終わりには、これからについてのメッセージを書く。手紙文の形式を身に付けると同時に、「始め、中、終わり」という簡単な構成も学習することができる。また、手紙という手段を用いることにより、相手との思い出を、ただ「楽しかった」という言葉だけではなく、「一緒に○○をして△△したことが楽しかった。」のように、具体的な経験と、それに対しての気持ちで表現する。「楽しかった」と同じ意味の言葉やオノマトペを用いて表現できるように、「言葉の宝箱」を活用して、気持ちや様子を表す語彙を増やす手立てとする。

### ③学習の成果物等の活用・共有を図ることによる、学びを積み重ねる指導

今回の単元では、お世話になった先生に宛てて手紙を書く。この単元での学習を生かし、保育園・幼稚園時代の先生、親戚、両親、友達等、児童自身が手紙を書きたい相手を選んで書くことが期待できる。また、①で述べた通り、今後の言語生活において、手紙という媒体だけではなく、メール、SNS等のツールを活用して、自分の思いを伝える場面も出てくるだろう。今回の単元で、自分の思いを伝えることができたという成就感だけでなく、「こんなお返事がくるといいな。」「手紙をもらってどう思ったかな。」等、手紙を受け取った相手の気持ちも考えさせることで、相手を尊重する気持ちを育みたい。

## (2) 学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

### ①言語活動の特徴や個の学習状況に応じた評価活動

座席表をもとにした評価簿を活用することによって、前時までの児童の実態と本時の支援を明確に示し、児童全員が「おおむね満足できる状況」を達成することを目指す。これにより、児童がどのような状況にあるのか、教師がすぐに把握することができ、適宜、助言することも可能になる。

### ②自らの学びを見直し、振り返り、調整するための手だて

学習計画と振り返りが一体化された「振り返りカード」を活用し、児童が自ら学びを見直し、振り返り、調整することができるようにする。また、教師が、振り返りカードに毎回目を通し、励ましの言葉やアドバイスをすることによって、児童自ら、「次はこうしよう」という学びの調整に気付くヒントとなることが期待される。

さらに、教師が児童の学びの実態を把握し、次の時間の支援や指導にも生かすことが可能になる。

③児童が学びの変容を自覚できる自己評価、相互評価

「手紙の書き方チェックシート」を活用し、書いた手紙読み返し、児童自身によって間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりすることができるようにする。その際、自分だけではなく、友達からも確認してもらい欄も設ける。また、お互いが書いた文章を音読することにより、丁寧に読み返す力も育てたい。

(3) 言葉の力の活用を意識した学習活動の工夫

①特別活動や他教科等と関連させた学習活動

本単元では「お世話になった先生」に宛てて手紙を書く。この学習をきっかけにして、年度末にはお世話になった6年生や生活科と一緒に活動した2年生や担任に手紙を書くという活動に活用することができる。

②配慮を要する児童への手だてを明確にした学習活動

穴埋めになっているワークシートを用意し、必要な語彙を入れながら文章を書くことができるように支援する。また、なかなか書くことができずに悩んでいる児童に対しては、教師や児童との対話を通して、児童から書きたい内容を引き出し、児童自身が書きたいことに気付くことができるように支援する。また、「言葉の宝箱」を活用し、必要な語彙を選んで書くことができるようにする。

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	指導事項	◆評価規準 ★評価方法 ○指導上の留意点
0		○暑中見舞いや誕生日祝いなど、教師や友達と手紙をやりとりする。 ○手紙を題材にした本の読み聞かせを聞く。 ○「てがみでしらせよう」で、家の人や友達に手紙を書く。		
一	1	○授業者と遊び、関わりをもつ。 ○今までに書いた手紙を振り返り、届ける良さ、もらう良さを話し合う。  ○「てがみでしらせよう」の学習を生かし、一緒に遊んだ授業者に手紙を書く。	・粘り強く、学習課題に沿って自分の思いや考えが明確になるように、簡単な構成を考えて書くことを通し、手紙の良さに気付いている。〔主体的に学習に取り組む態度〕	○教室で行えるレクを通して、児童との親睦を深める。 ○手紙をもらった経験のある児童の話から、受け手の思いを知る。 ○0次の学習で、手紙を届けた時の思いを振り返る。 ○「楽しかった」「優しかった」などの思いを共有し、板書で加筆する。 ○授業者に手紙を渡す。「お返事が楽しみ。」「もっと書きたい。」等の思いを全体で共有する。  ◆ [態度①] ★振り返り
二	2	○授業者からの返事を読む。 ○「ぼかぼかする」とはどのようなことか考え、学習計画を知る。  ○文例を読み、どのような手紙を書くかを知る。  ○ワークシートに題材、エピソードを書く。	・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。〔知識及び技能〕(2)ア  ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思	○授業者からの返事の感想を伝え合う。 ○授業者が児童から手紙をもらった成就感を伝え、一年間お世話になった担任の先生にも「ぼかぼかする」手紙を書くという目的意識をもつ。 ○自分だけのエピソードがある、自分には書けない手紙であると、より「ぼかぼか」する手紙になっていくと確かめる。 ○手紙の構成を知る。一つの題材について詳しく書く良さを確かめる。 ○文例で、始めと終わりは形式に沿って書き、中は自分だけのエピソードを書くことを確かめる。

		○手紙に書きたいエピソードを一つに絞る。	考力、判断力、表現力等] B(1)ア	○担任の先生とのエピソードを全体で話し合い、付箋の書き方を共有する。 ○自分だけのエピソードが書けるように、先生やみんなが知らないことの視点をもたせる。 ◆[思・判・表①] ★取材カード(ワークシート1)
	3 (本時1)	○構成メモに「はじめ」を書く。 ○前時に選んだ「ぼかぼかエピソード」を構成メモの「中」に貼る。 ○「中」の続きに「気持ち」や「つぎにおきて」を書く。  ○「終わり」書く。	・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。[思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ	○「始め」と「終わり」は、文例を参照し、手紙の形式に沿って書く。  ○分からない児童は「そうだんコーナー」で友達や教師に相談しに、書き終えた児童は「こうりゅうコーナー」で読み合う。 ○気持ちを表す言葉を探す手立てとして、「言葉の宝箱」を提示する。 ○1年間お世話になった先生に伝えたいこと、感謝の言葉などを書く。 ◆[思・判・表②] ★構成メモ(ワークシート2)
	4 (本時2)	○「ぼかぼかエピソード」について、「つけたしエピソードカード」にくわしく書く。 ○「中」の順序を検討する。 ○「ぼかぼかチェックシート」を使って、書いた手紙を読み返す。 ○チェックシートを確認し、書き直したり付け足したりする。	・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。[思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ	○文例で、具体的な経験や会話を書くことを確かめる。 ○「この時、実は」に続くエピソードを考えるよう助言したり、先生に掛けられた言葉を考えさせたりする。 ○「中」の順序まで検討した児童から、自分で「ぼかぼかチェックシート」を確認しながら読み返す。その後、書き終えた児童同士が見直しコーナーで読み合う。 ○気持ちを表す言葉を探す手立てとして、「言葉の宝箱」を提示する。 ★[思・判・表②] ★構成メモ(ワークシート2)
三	5	○構成メモをもとに、便せんに手紙を書く。  ○手紙を、ペアで読み合い、「よかったよカード」に書いて渡す。	・粘り強く、学習課題に沿って自分の思いや考えが明確になるように、簡単な構成を考えて書くことを通し、手紙の良さに気付いている。[主体的に学習に取り組む態度]	○児童それぞれの思いに応じて便箋の種類を選択できるようにする。 ○「とっておきのエピソード」を詳しく書けたか確認しながら、お互いの作品がぼかぼかするお手紙になっているかを確認する。  ◆[主①] ★振り返りの記述
実の場		○担任の先生に手紙を渡し、読んでもらう。 ○担任の先生から児童への返事の手紙を読み、手紙を書くことの良さを共有する。		

6 本時の学習（3／5時間）

（1）本時のねらい

○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等B（1）ウ〕

（2）展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
<p>1. 前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のテーマは漢字ノートだったな。</li> <li>・「花丸をもらってうれしかったです。」の文は使いたいな。</li> </ul>	<p>○「とっておき」の視点でエピソードを考え、選んだことを振り返る。</p> <p>○本時に向けて自己調整している子どもの振り返りから、前時に選んだ文を生かして手紙の構成メモをつくる見通しをもち、「中」の内容を確認める。</p>	
<p>手がみのメモをつくらう。</p>		
<p>2. 構成メモに「はじめ」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつもやさしくしてくれてありがとう。」</li> <li>・「いつも勉強を教えてくださいありがとうございます。」</li> </ul> <p>3. 前時に選んだ「ぼかぼかエピソード」を、構成メモの「中」に貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「花丸をもらってうれしかったです。」を貼って、次は「おかげで、宿題を頑張れました。」だったな。</li> </ul> <p>4. ワークシートの「中」の続きに、「気もち」や「つぎにおけて」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これからどうしたか」は迷うな。座席表で誰に聞いてみるか確かめよう。</li> <li>・言葉の宝箱にある、「ほっとする」を使おう。</li> <li>・「これからも字を丁寧に書きたい」にしよう。</li> <li>・「これからもいっぱい花丸をもらえるように頑張ります。」がいいかな。</li> </ul> <p>5. 「つぎにおけて」まで書き終えた児童から、「終わり」書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1年間ありがとうございました。」にしよう。</li> <li>・できたけど、「中」の「つぎにおけて」が、まだ足りないな。</li> <li>・できるようになったことを伝えたい。</li> </ul> <p>6. 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aさんと話し合ったら、「気もち」や「つぎにおけて」ができたぞ。</li> <li>・「ぼかぼかエピソード」をもっとくわしくかきたいな。</li> </ul>	<p>○「はじめ」は、文例を参照し、手紙の形式に沿って書くことを確かめる。</p> <p>○前時に選んだ「ぼかぼかエピソード」の貼り方を示す。</p> <p>○分からない児童は「そうだんコーナー」で友達や教師に相談し、書き終えた児童は「こうりゅうコーナー」で読み合う。</p> <p>○気持ちを表す言葉を探す手立てとして、「言葉の宝箱」を提示する。</p> <p>○「終わり」は、文例を参照し、手紙の形式に沿って書くことを確認する。</p> <p>○出来上がった構成メモを微音読み、次時へつなげるように促す。</p> <p>○手紙のメモをつくるのに役立つ学習環境、話し合いの相手などを振り返り、学習計画と振り返りの表に書く。</p>	<p>◆「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。イ②</p> <p>★構成メモ（ワークシート2）</p> <p>○概ね満足できる児童への手立て 児童用座席表型指導簿から、「気もち」や「つぎにおけて」を考える方法（学習環境や話し合いの相手）を選ばせる。</p> <p>○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て 言葉の宝箱から「気もち」を選ばせたり、児童の内容に合うものを助言したりする。</p>

6 本時の学習（4／5時間）

(1) 本時のねらい

○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等B（1）ウ〕

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習について、自分の構成メモや振り返りの記述で振り返る。</li> <li>・まだ足りないことや書き足したいことがあるな。</li> <li>・足すことができたなら、今日はお手紙を書きたい。</li> <li>・完成したら、友達に読んでほしい。</li> </ul>	<p>○具体的に書くことについての見通しをもつ。</p> <p>○文例を読み、「とっておきのエピソード」をふくらませて手紙を書く良さを確かめる。</p>	
<p>つけたして、手がみをもっとぼかぼかにしよう。</p>		
<p>2 「ぼかぼかエピソード」について、「つけたしエピソードカード」にくわしく書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとくわしく書いて、先生に伝えるようにしたいな。</li> <li>・先生に言われた思い出の言葉を書きたい。</li> </ul> <p>3 「中」の順番の検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この順番でいいかな。</li> <li>・順番を変えた方が良さそうだな。</li> </ul> <p>4 「ぼかぼかチェックシート」を使って、書いた手紙を読み返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で読み返そう。</li> <li>・間違った字はないかな。</li> <li>・これで「ぼかぼか」が伝わるか、友達に読んでもらおう。</li> </ul> <p>5 チェックシートを確認し、書き直したり付け足したりする。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思い出をくわしく書いたら、ぼかぼかするお手紙になったな。</li> <li>・直したお手紙を次の時間にもう一度友達と読み直したいな。</li> <li>・くわしく書けたので、便箋に書きたいな。</li> </ul>	<p>○「とっておきのエピソード」の内容をふくらませて、「つけたしエピソードカード」（ピンク色）に書く。</p> <p>○さらに詳しく書ける内容は無いかを考え、「つけたしエピソードカード」（黄色）に書く。</p> <p>○色を変えることで、くわしく書きたいという気持ちが高まるようにする。自分の選んだテーマから外れないように助言する。</p> <p>○作った「エピソードカード」の順番を入れ替えて、「中」の順番を最終決定するよう例を示す。</p> <p>○まず、出来上がったものを微音読み、自分で「ぼかぼかチェックシート」を確認する。次に、書き終えた児童同士が交流コーナーで読み合う。</p> <p>○気持ちを表す言葉を探す手立てとして、「言葉の宝箱」を提示する。</p> <p>○個人でお手紙の内容を読み返し、加除訂正を加える。</p> <p>○本時の学習でできたことや難しかったことを振り返らせ、次時への課題を見いだすことができるようにする。</p>	<p>◆「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。イ②</p> <p>★構成メモ（ワークシート2）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○概ね満足できる児童への手立て</p> <p>「ぼかぼか」するエピソードを思い出ししながら、詳しく書かせる。</p> <p>○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て</p> <p>担任の先生に掛けられた言葉や、『ぼかぼか』した出来事を具体的に考え、どのような言葉で書き表せば良いか考えさせる。</p> </div>

